

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100446		
法人名	医療法人 起生会		
事業所名	グループホーム こ・こ(Co・Co)		
所在地	熊本県 熊本市中心区 坪井3丁目 9番27		
自己評価作成日	平成24年10月 15 日	評価結果市町村受理日	平成25年1月22日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

真心のこもった介護サービスの提供をモットーに、ご利用者さまが安心して生活できる家庭的な環境作りにも努めています。些細な事でもご家族と相談しながら支援に繋げている。ベランダには家庭菜園のスペースを設け、ご利用者さまと共に野菜を植え、収穫から料理を楽しむことができる。また、四季折々の花を植え季節の変化を感じられる工夫をしている。同法人の病院をはじめ、協力医療機関との連携も充実しており早期治療に繋げている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

本事業所は管理者・職員が、理念(真心こもったサービスの提供)を共有し、他事業所が参考になるケア・取り組みが実践されている事業所です。例えば、本人の日常のスナップを同封した毎月の家族への手紙、避難訓練を職員自から日常的に実施する取り組み、運営推進会議を出席する地域の方・家族・行政の活発な意見交流の場とする工夫・雰囲気作り、等々です。また、高齢化重度化した利用者の大きな楽しみである食に関しても、隔月ごとの豪華な出前食・イベント時のバイキング・手作り弁当など利用者本位の取り組みがバラエティ豊かに実践されています。幹線道路から1分、マンションに囲まれた街中に立地している本事業所ですが、散歩・買い物・地域行事への積極的な参加を積み重ね、徐々に近所から声をかけていただく関係を築いています。今後とも、利用者本位のケアに向けた独自の工夫・取り組みを期待したい事業所です。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益財団法人 総合健康推進財団
所在地	熊本市中心区保田窪1-10-38
訪問調査日	平成24年12月5日

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	Co・Coの由来は、Community・地域(共同体)。Cordial・真心のこもった。事業所の理念は、玄関やキッチンに掲示、職員業務マニュアルの中にも折り込み、常に意識付け実践に繋げている。	理念「地域の皆様に、親しまれ、真心こもった介護サービスの提供します。」を、名札の裏を始め、目に触れる場所いくつかに掲示され、意識付けする取り組みが行われている。管理者・職員それぞれから出た、「自分の親・家族を預けていると思いながらケアを実践している」という言葉からも、理念が共有されていることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、回覧板を通し地域の情報の把握に努めると共に、近隣への散歩、買い物時には住民の方との挨拶を交わし、また法人の夏祭りへの参加は、地域の方々との交流の場となっている。	近所への散歩、買い物時に、近所の方から声をさせていただき関係が築けている。近隣の方と共に餅つきをして、神社へ餅を奉納するお手伝いをしたりする交流がなされている。藤崎宮秋大祭では、飾り馬が事業所に訪れ、利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長、民生委員の方に運営推進会議へ参加して頂き認知症の理解と共に地域での暮らしについて意見交換を行っている。災害時は高齢者の受け入れ要請にも対応。玄関にAED設置の表示も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段の生活状況や問題点などを報告し、参加者の意見を取り入れ、サービス提供の参考にしている。議事録は玄関に掲示し自由に閲覧できる。	多数の写真と伴に、記録されている議事録からは、ミニ勉強会など工夫が見られ、活発な意見を交わす場となっていることが伺える。アウトホームな茶話会のような雰囲気を実施される委員会は、委員総意のもと、全員参加が可能な日程で3ヶ月に1回実施している。外部評価から導き出す目標達成計画のモニタリングの場としても活用されている。	多くの事業所が、運営推進会議をいかに活発にするかを課題としているのが現状です。他事業所との交流・研修の折に本事業の取り組みを紹介する場が作られることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、包括支援センターからの参加を頂きその他の連携もスムーズ。熊本市支援相談員の受け入れを行うと共に、事故報告、感染報告等も行い、些細な事でも電話で相談している。	地域包括支援センター・担当課ともに、気軽に連絡・対応し合える協力関係が築けている。支援相談員からの情報を活かし、ケアの向上・改善に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる具体的な行為は何か？、マニュアルを基に職員間で話し合い拘束をしないケアの提供を行なっている。日常的に玄関に鍵を掛ける習慣も無い。法人全体の勉強会にも参加し常に認識付けている。	事業所全体会・ケアカンファレンス・なでしこ全体会で、拘束をしないケアの研修が計画的に実施されている。言葉かけによる拘束・センサーマットの必要性など、拘束を掘り下げて考える話し合いが行われている。離ホームする利用者には、寄り添い、帰りを促す取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の倫理委員会への参加や職員間で虐待についての勉強会を行っている。新聞記事を基に身体的、精神的虐待について、日頃から話題にしている。また、職員のストレスマネジメントにも留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内や外部研修会へ参加し、参加者がホームでの復講を行っている。以前入居者様の中にも成年後見人制度の保佐を受けておられる方もおられた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、契約書を1項目ずつ説明、その都度質問にお答えし納得された上で署名・捺印を頂いている。また、変更が発生した場合文章による説明を行ない承認を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に積極的に意見を聞き、内容は記録に残し情報を共有している。会議の場で話し合いを持ち解決できるように努めている。	運営推進会議や普段の来訪時に、家族の意見・要望が引き出せる雰囲気づくりがされている。家族からの意見でプライバシー尊重のケア向上の取り組みへの反映、家族からの差し入れの受け入れ、日祭日・時間外訪問などが気軽できる取り組みが行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の業務の中で職員と意見交換を行い可能な限り早期改善を図っている。また、毎月職員全体会を開催、法人事務長も出席して双方の意見交換や経営報告も行っている。	職員の要望により、昼休みの確実な確保が実行されたり、設備の改善や行事の予算に対する対応がされるなど、管理者・事務長共に職員の要望・意見を聞く取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営運営会議において各管理者へ、事業所の業績を報告すると共に、職員個々に対しては年2回人事考課を行い賞与に反映。また、外部研修へも積極的参加を促している。勤務希望にも柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会を実施、法人での勉強会・外部研修にも可能な限り出席。復講も行っている。新入職員に対しても職員全員でサポートしており、資格取得の推進により、ケアの質向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県宅老所、グループホーム連絡会・熊本市グループホーム連絡会への加入。ネットワーク作りや勉強会や情報交換、意見交換を行い、他事業所の見学等の機会を得て、お互いを高める努力を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴の中から好きな事・嫌いな事・興味を持たれる事等、事細かにご家族様から情報を収集し、環境に慣れるまでなるべく寄り添い表情や言動を見ながら安心して頂けるような言葉掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談に至るまでの背景・経過・生活歴・社会性・ご家族様が一番何にお困りなのか、事業所にどのような期待を寄せておられるのか、ご入居後の状況を細かく報告し一緒に考える姿勢で接している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人希望・ご家族様のご要望を受けとめ、今までの生活をベースに無理をしない様に担当ケアマネージャーさんとサービスの調整を行ないケアの実践に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で洗濯物を一緒にたたんだり、沢山の経験談を傾聴し昔ながらの保存食や風習を学んだり、小さな菜園の種まき等、相談しながら一緒に楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族様との時間を大切に考えご家族様との外出の支援も積極的に行い、遠くにお住まいのご家族様へ写真やお手紙TELでの連絡をします。また、ご本人の希望を代弁しご家族様との外出に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の許可があれば、知人のご面会も自由に行っている。また、ゆっくりして頂ける様配慮している。馴染みの商店街への買い物や、見慣れた景観へのドライブ等も行っている。	知人來訪時には、自室に茶菓を持っていくなど、ゆっくり過ごせる配慮がされている。定期的に美容師が来所しているが、行きつけの美容院がある利用者には、その関係が途切れない支援が行われている。また、家族が勤めていた職場など馴染みの場所にドライブで行く取り組みも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談笑される事もあれば、急に口論される事もある。高齢化し、お互いに体調を気遣われる場面も見られる。職員は夫々の方に応じて話しかけ集団レクも個々の得意なことを組み込み実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療依存が高く成なり医療機関に入院。ご家族様の不安やストレスなどお話や今後の治療方針の相談に応じるなどの支援に努めた。また、退居されたご家族が、家庭菜園で作られた野菜を届けて下さる事も有る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時、その後もご本人・ご家族様の意向を確認しながら希望に添える様に、今までの生活習慣・晩酌・入浴・外出等の支援に努めている。お昼寝の習慣が有られる方は短時間お休み頂きます。	利用者の日頃の言葉に丁寧に耳を傾けるケアが行われている。家族に気兼ねして「家に帰りたい」と言い出せない利用者の思いを家族に伝え、一時帰宅できた事例がある。また、毎日定時に自室のお仏壇にお参りしたい利用者の支援も行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションからこれまでの生活や経験、出来事などを聞き取る。また、面会時にホームでの生活状況を報告し家族から情報を得よう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自由にホールや居室で過ごされ、共に生活する中で表情や会話・動作で心身状態が分かる様努めている。各個人の能力に応じてお手伝いをお願いしている。職員間は毎日の変化を申し送りしながら把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基にケアを提供。ご家族様や職員の意見、日常の生活状況等を基にモニタリングを行い個々に合ったケアの提供が出来る様に努めている。3ヶ月毎及び必要時、計画の見直しを実施している。	全職員の意見が反映できる取り組みを行い介護計画が作成されている。利用者の高齢化がすすみ、状態が急に悪くなることもあるが、その時々々の現状に即した介護計画に作成し直すケアが実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事水分摂取量、排泄、睡眠、言動、活動、体調また、ご家族との会話に至るまで記録に残し職員間の情報共有に努めると共に振り返り、計画への反映、ケアの実践に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の希望が有れば外食・美容室への外出や外泊等ご本人の体調を見ながら支援する。気候に合わせたレクリエーションの実施。帰宅要求が強い時、短時間のドライブ・近隣の散歩の対応をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢化と共に外出の機会が減ってきた。車椅子散歩やドライブなどで車窓から変わりつつある街並みを見ながら会話を弾ませている。また、デイサービスと一緒にボランティア(日舞・フラダンス)等を楽しめる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化があればご家族様と相談し病院受診。ご家族様と共に受診される時は、日々の状況を詳しくお伝えする様心掛けています。法人の院長(主治医)とは日頃から些細な事でもTELで連絡相談を行っている。	母体が病院であるが、今までの主治医を希望する利用者には、受診継続の支援がされている。その折には、利用者の日頃の状態が詳しく記載された書面が用意される。母体院長とは、利用者の状態を24時間連絡できる関係が築けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各ユニットに看護職を配置。生活中で、体温・脈拍・血圧・排泄・食欲等を把握しながら入居者様と触れ合う機会を持ち、異常の早期発見に努めている。介護職員も異常を感じたらその都度看護職員へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の病院へ入院される事が多い為、主治医・担当看護師との連携は取れており、情報交換もスムーズである。また、別の医療機関であっても面会の機会を多くし情報の収集と共に精神的なフォローに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時、重度化した場合の指針をご家族様へ説明を行っている。高齢化が進むに連れ今後予測される事を機会があるごとに主治医を交えてご家族様へ説明し一緒に考えていく姿勢で対応中である。職員間でも、看取りについての勉強会を行っている。	利用者が馴染みの場である本事業所で最重度化まで過ごせるよう、母体病院院長も交え家族と何度も話し合いながら終末期支援が実践されている。母体病院の協力のもと、最期にむけた転院を、病院の救急車を利用する支援も行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成すると共に心肺蘇生法・AEDの使用法・吸引機の使用法等、勉強会を実施。実際に機械に触れ訓練をする事で周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火・避難訓練は年間2回実施、職員は夜間の火災を想定し常にシュミレーションを行っている(通報・初期消火・避難誘導等)運営推進委員も訓練に参加して頂いた。大災害を視野に非常食も常備している。	年2回定期的訓練が実施されている。更に、日頃から、午後の空いた時間を利用して、職員自ら、「実際に動けるには、体で覚えることが大事」と、頻繁に訓練を実施している。利用者のみならず地域住民の避難場所としても活用できる非常食が常備されている。	災害時地域の避難場所として、活用できる準備ができていることを、日頃から地域に周知し、協力し合う関係づくりを深める取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	夫々の生活歴や物事の価値観等、個別性を受け入れ自尊心を傷つけない言葉かけやトイレ誘導時にも配慮している。個人情報については、入職時に全職員から契約書を取り、外部への情報の漏洩を防いでいる。	利用者それぞれの生活歴から得た得意分野を活かすケアを実践している。トイレ誘導の際には、すみやかに、静かに、「大丈夫」の声かけを心がけている。適当でない声かけに、気づいた時は注意し合っている。	たまに訪れる家族は、職員の何気ない対応が、ケアそのものと感じることもあります。利用者のみならず家族への接遇の更なる向上にむけた取り組みを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に夫々の好き嫌いを注意深く観察し、言語での表現が困難な方にはいくつかの選択肢を準備して表情で確認する。生活の中で自分の意見や希望を言える環境作りに努める。衣類の選択もその一つである。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自然とホールに集まって談笑したり、自室やホールで自由に過ごされる。午前中の集団レクや午後はソファでの日光浴、近隣への散歩を楽しまれるなど、その日の状況に応じてケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時は一緒に衣類を選んだり、美容室へご家族様が連れて行かれたり出張して頂いたりしている。整髪の出来ない人は職員が行うと鏡をみて笑顔が見られる。毎日化粧される方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を献立に組み込み歳時記の料理やイベント食、また隔月には会席膳など、豪華メニューも取り入れている。食事の準備や片付けは利用者の得意分野に応じて一緒に行っている。	食事の下ごしらえ、おやつ作りなど利用者と一緒にしている。事業所のイベントの折にはバイキング食、誕生日には手づくりケーキ、隔月には豪華な会席弁当・鰻・お寿司などの出前食など、利用者が食事を楽しむ支援がバラエティ豊かに実施されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は記録に残している。嚥下障害のある方へはトロミ食・ミキサー食等工夫をし必要な水分、栄養の確保に努めている。献立作成時は食材が重ならない様配慮している。月2回体重測定の実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い 磨き残しは職員が介助する。ご本人の能力に応じて嗽のみ自分でして頂く様声掛けする。夜間義歯は洗浄剤に浸し朝お渡しする。定期的に歯科医師の口腔ケアを受けておられる方もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夫々の排泄パターンを知りその人に応じた誘導を行い失敗されても自然に接する。必要に応じて排泄用品を選択し小まめにカンファレンスを行い不要になったら速やかに変更、中止する。	現在、体調の悪い利用者のみ、リハビリパンツを使っている。それ以外の方は、布パンツ・尿とりパットで対応されている。排泄の自立支援が積極的に行われ、入所後、リハビリパンツがはずれる利用者が多数いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事の摂取量を確認すると共に、乳製品、繊維の多い食事の提供。歩行の機会を増やしたり腹部マッサージを実施。頑固な便秘は主治医に相談して緩下剤の投与を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後で入浴の声掛けを行っているが、拒否の強い方に対しては、歩行時やトイレ後などタイミングを見ながら声掛けを行っている入浴剤も準備。介助が必要な方が多くなれば時間配分も考慮している。	入浴を拒否される利用者には、希望に沿いながら、タイミングを見計らって声をかける入浴支援がされている。入浴剤は、利用者の肌への影響を考えて、現在は使用されていない。同性・異性介助は利用者の反応をみながら対応している。介護度が上がった利用者には、午後から職員二人で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜昼共に、ご本人様の生活習慣に応じてお休み頂いている。夜間の排泄回数が多い方もおられ、前日の睡眠状況に応じて、昼夜逆転にならない程度に、お昼寝を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から渡される情報をその都度ファイルし確認。変更時は伝達し、作用・副作用の出現を観察記録に残す。必要に応じて主治医へ報告相談する。また誤薬防止の為Wチェックを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションの中で、個々の得意分野を披露して頂いている。また、負担にならない程度の手伝いをお願いし自然と食事の準備、片付け、洗濯物干し、たたみ、食器拭きなどの役割ができています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様と、食事や美容室・お墓参りと外出の機会もある。また、ドライブや花見、買い物などの支援、ご本人様の思いを家族に伝え自宅への外出が実現したケースも有る。歩行状態の低下で外出が困難な方も短時間ホーム周辺の散歩を実施している。	近所への散歩、好物の饅頭屋へのおでかけが日常的に行われている。近くの商店街まで車で行き、商店街を楽しむ支援も行われている。手づくり弁当持参もある季節ごとのおでかけは、利用者の大きな楽しみとなっていることは、笑顔あふれる写真からも伺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが、お金を持たれる事で安心される方もいらっしゃるが、お金の管理は難しい。身の回りの品物の購入を依頼される方もいらっしゃるが、年々難しくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取り次ぎや、難聴のある方の仲介を行ったりしている。御家族の名前を呼ばれ落ち着かれない時は、TELで声を聞かれるだけで安心される事もある。毎日絵手紙を頂く御家族もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月ごとに季節に応じたちぎり絵を一緒に作り掲示している。また、ホームの空間に草花を活けたり、小さな菜園では季節に応じて野菜や花を植えている。トイレは職員も共有する事で清潔を保ち、床や壁は木目で違和感を感じない様に配慮している。	明るく広いリビングは、利用者が職員と作成した季節を感じる事ができるちぎり絵などで飾られ、加湿器・空気清浄器も整備されている。また、利用者の混乱を招かないように、家具の場所を変えない配慮がされている。トイレは広く、小物入れが設置されるなど、利用者は使いやすく、職員はケアしやすい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食堂と居間にはソファや畳の間があり、夫々に自分の居場所が決まってきており、落ち着いて好きな場所で過ごされるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は夫々思いのままに家具・寝具・ご家族の写真等、殆どがご本人とご家族様の思いで配置されている。足元の危険性を確認しながら居心地のいい自由な空間となっている。	各部屋に車いすでも対応できる洗面所が設置されている。収納が十分できるクローゼットがあり、動きやすい空間となっている。混乱を招かないように、家具の場所を変えない・こだわりを受け入れるなど、利用者が居心地よく過ごせる支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールへ出て来られれば他者の居室やスタッフの姿が見える。顔なじみの職員が近くに居る安心感はある様子。トイレもマークで現し日時も大きめの時計・手作りの日めくりカレンダーをホールに配置している。		